VOICE

受講生の声

今回集まったメンバーは総勢26名。20代～60代まで幅広い世代、そして学生から経営者まで多様な受講生が集まりました。全5日間のプログラムにおける受講生の生の感想をご紹介します！

普段は会社員として、合理性や効率に捉われがちな日々ですが、この講座は“やわらかな見方・考え方に自分の価値観が殴られた”ような、ユニークで衝撃的で、とても素敵な経験でした。個性輝く受講生や関係者の皆様との出会いも、今後ずっと宝物です！
（20代女性）

徹底的に求められるジブン。よく分からない中で動かす手。仲間との議論の刺激と苦悩。先生やTAからのハッとさせられる問い。異文化の国への旅行のような時間でした。必ずしも居心地が良いわけではなく、ハラハラドキドキ。そして病みつきに。
（50代男性）

見慣れた街や初めて訪れる島も、立ち止まって見つめ、先生や参加者同士で対話しながら形にしていくことで、新たな気づきが生まれると実感しました。美大ならではのアウトプット方法にもワクワクし、新たな引き出しを得られた学びの深い体験でした。
（30代男性）

昨年とは違った学びがあり、美大教育の奥深さにハマりました。効率化や成果を求められる普段の実務から離れ、手を動かしながら取り組むグループワークには、実務のヒントになるような発見がありました。個性豊かな仲間との出会いにも感謝です。
（40代女性）

サービス改善の業務で、ロジックだけでは限界を感じて参加しました。特にフィールドワークで、スケッチや制作も行いながら手を動かし、思考をジャンプさせる美大ならではのアプローチが印象的で、これまでとは違う発想の広げ方を学べました。
（30代女性）

旅行関連の新規事業を立ち上げるにあたり、新たな視点を得たく参加しました。
美大ならではの物事の捉え方、アウトプット方法、そして講評によるフィードバックはすべてが新鮮で、これからまだ世の中にない新たな価値を生み出していく上で、この経験は確実に武器になると思います。
（30代男性）

次回告知

NEXT COMING UP

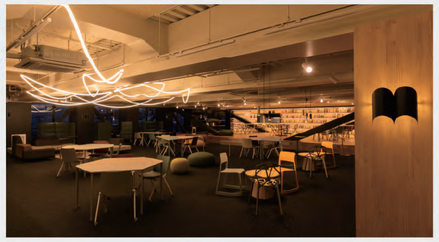
第３期
新たな観光事業アイデアを社会実装に繋げる

第３期のテーマは「リフレーム」に決定。
第1期、第２期は、アート＆デザインの視点で、独自性の高い観光資源を創り出すアプローチを習得しました。来る第３期では、お客様の心に残る経験をデザインするための考え方を座学と演習で学びます。

2026年秋、募集告知（予定）
詳細はWEBサイトにて随時公開

公式WEBサイト：https://vcp.musabi.ac.jp/tourism

note



コワーキングスペース『Ma』

本講座の会場でもある、「Musashino Art University Ichigaya Campus Co-Creation Space -Ma-」は、「市ヶ谷」駅から徒歩徒歩３分の会員制コワーキングスペースです。
大学に併設されており、アート・デザインに限らず様々なクリエイティブな仕事に関わる方の参加を歓迎しています。
詳細はコチラ ▶ https://ma.musabi.ac.jp/

VALUE CREATION PROGRAM FOR TOKYO TOURISM

● 東京都「大学等と連携した観光経営人材育成事業」について
東京都では、観光関連事業者の経営力向上を図り、観光産業の活性化につなげることを目的として、大学等と連携して観光関連事業に従事する者等に向けた新たな教育プログラムの開発等の支援事業を実施しています。
武蔵野美術大学は2024年度より連携大学に選定されています。

© 2025 Musashino Art University

Regenerative TOKYO

CONCEPT

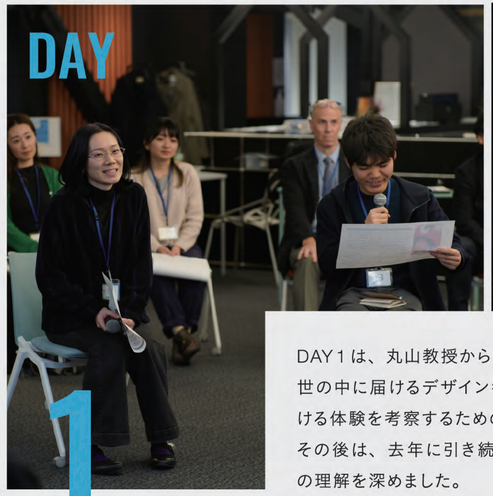
アート＆デザインの視点でTOKYOを『観る』、その魅力に『光』をあてる。

世界中の来訪者を惹きつける、多彩な魅力に溢れた街、東京。トレンドの最先端を走る一方で、時代の流れに埋もれ、見えなくなっているものもある。

人と人の繋がりや、人とまちの関わりも、その一つかもしれない。歩く速度を少し緩め、偶然の出会いや予期せぬ出来事に身を委ねてみる。

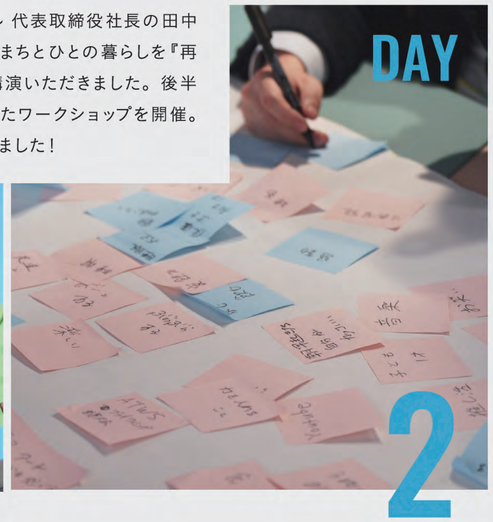
ふとした瞬間、見失っていた関係性が鮮やかに浮かび上がる。その小さな発見が、東京の観光を再生させていく。

– Designing TOKYO's Regenerative Tourism.



DAY 1 は、丸山教授から「お客様にとって望ましい経験を捉え、世の中に届けるデザイン考える」、石川准教授から「都市における体験を考察するためのアート」をテーマとした講義を実施。その後は、去年に引き続き「他己紹介」を行い、参加者同士の理解を深めました。

DAY2 は、株式会社グランドレベル 代表取締役社長の田中元子さんが登壇。「1 階から始める、まちとひとの暮らしを『再生』するデザイン」をテーマにご講演いただきました。後半は「私をまちに持ち出そう」と題したワークショップを開催。私を起点にまちとの関わり方を描きました！



DAY 3 は、熊澤酒造株式会社 代表取締役の熊澤茂吉さんが登壇。「老舗酒造の世界観を100年先に継ぐ、ブランド体験のデザイン」についてお話し頂きました。後半は「熊澤酒造ってどんな場所？」をテーマにワークショップを実施。熊澤酒造が育む世界観とその価値を考察しました。

DAY 4 は、浅草橋でのフィールドワーク。心が動く瞬間をスケッチと詩に落とし込み、そこからコラージュ作品を制作。最後はミニ展示会を開催し、参加者のコラージュ作品を鑑賞しながら、丸山教授から厳しくも愛のある講評 …。まちに潜む心の機微を捉え、表現へと昇華しました！

DAY 5 は、浅草橋での気づきから「来訪者と居住者の心地よい関係をつくる」をテーマに、観光サービスのプロトタイプを制作。チームで試行錯誤を繰り返した 1 日でした。最後は丸山教授、石川准教授のお二人から講評ラッシュ。5 日間の学びを実践的なアウトプットへと昇華しました。

DAY 6-7 は任意のメンバーで市ヶ谷を離れ、伊豆大島でのフィールドワーク。「持続可能な『再生』の観光」をテーマとしたサービスのプロトタイプを制作しました。最後は現地ガイドの神田遼さんからも講評を頂き、島のリアルな視点に触れながら、観光のことを深く考える二日間となりました！

先生からのコメント

TEACHERS

美大の創造性教育メソッドをベースに、従来の観光の概念に揺さぶりをかけることができるのか？が本プログラムに対する私たち講師陣の挑戦です。履修生の“ヒトと社会を観る態度の変化”に学びの効果を感じています。3 年目となる次回はその総括となります、ご期待ください。

武蔵野美術大学造形構想学部 教授
丸山 幸伸

観光とアートをともに考えることは、環境そのものを鑑賞する視点につながります。その視点を育むためには、ウォーカブルな街づくりが不可欠です。日常の中に非日常を見出し、その楽しさを感じる眼を育んでいってください。

武蔵野美術大学造形構想学部 准教授
石川 卓磨